

第1章 三木市の現状と市民意向

1.市の概況

(1) 市の位置・地勢など

本市は、兵庫県の南東に位置し、加古川の支流、美嚢川が中央部を東西に流れ、美嚢川周辺には平野部が広がり、それを囲むようになだらかな丘陵地、台地で構成され緑豊かな自然に恵まれています。丘陵地にはゴルフ場が多く、平野部には農村地帯が広がり、酒米山田錦の産地として全国に知られています。また、歴史的資源にも恵まれ、古くから金物のまちとして栄え、湯の山街道沿いなどに歴史的な町並みが残っています。

市域面積は 176.51 平方キロメートルと東播磨地域では 2 番目に広く、神戸市、加古川市、小野市、加東市、三田市、稲美町の 5 市 1 町と接しています。

昭和 29（1954）年の市制施行以後、昭和 40（1965）年からは、阪神間のベッドタウンとして、神戸電鉄沿いを中心に、自由が丘、緑が丘、青山などの大規模な住宅開発が行われ、人口は急激に増加し、仕事や日常生活において、神戸市、小野市、三田市などの近隣市町との関係が深くなっています。

一方、中国自動車道及び山陽自動車道、舞鶴若狭自動車道が通るなど、優れた高速道路網が形成されており、西日本一数の多いゴルフ場をはじめ、三木山森林公園、三木ホースランドパーク、山田錦の館、吉川温泉よかたんなどの観光・レクリエーション施設には多くの人々が訪れています。また、広域防災拠点やスポーツ振興拠点の役割を担う県立三木総合防災公園、新産業創造拠点としてひょうご情報公園都市が整備されるなど、住みよいまちづくりや、地域活力の向上に向けて発展を続けています。



図 本市の位置

(2) 都市計画区域の概要

本市は、東播都市計画区域（線引き都市計画区域）、吉川都市計画区域（非線引き都市計画区域）、都市計画区域外（細川地域・口吉川地域）の 3 種類の区域が存在しています。

東播都市計画区域における市街化区域の割合は 16.9%で、コンパクトであるものの、全体的にゆとりのある市街地が形成されています。用途地域の区分は、住居系用途地域が 65.7%、商業系用途地域が 2.6%、工業系用途地域が 31.7%で、古くから金物のまちとして栄えたことから、工業系の用途地域も比較的多い状況にあります。昭和 40 年以降に大規模な住宅開発が行われたことにより、住居専用地域を中心とする住宅都市に変化しています。

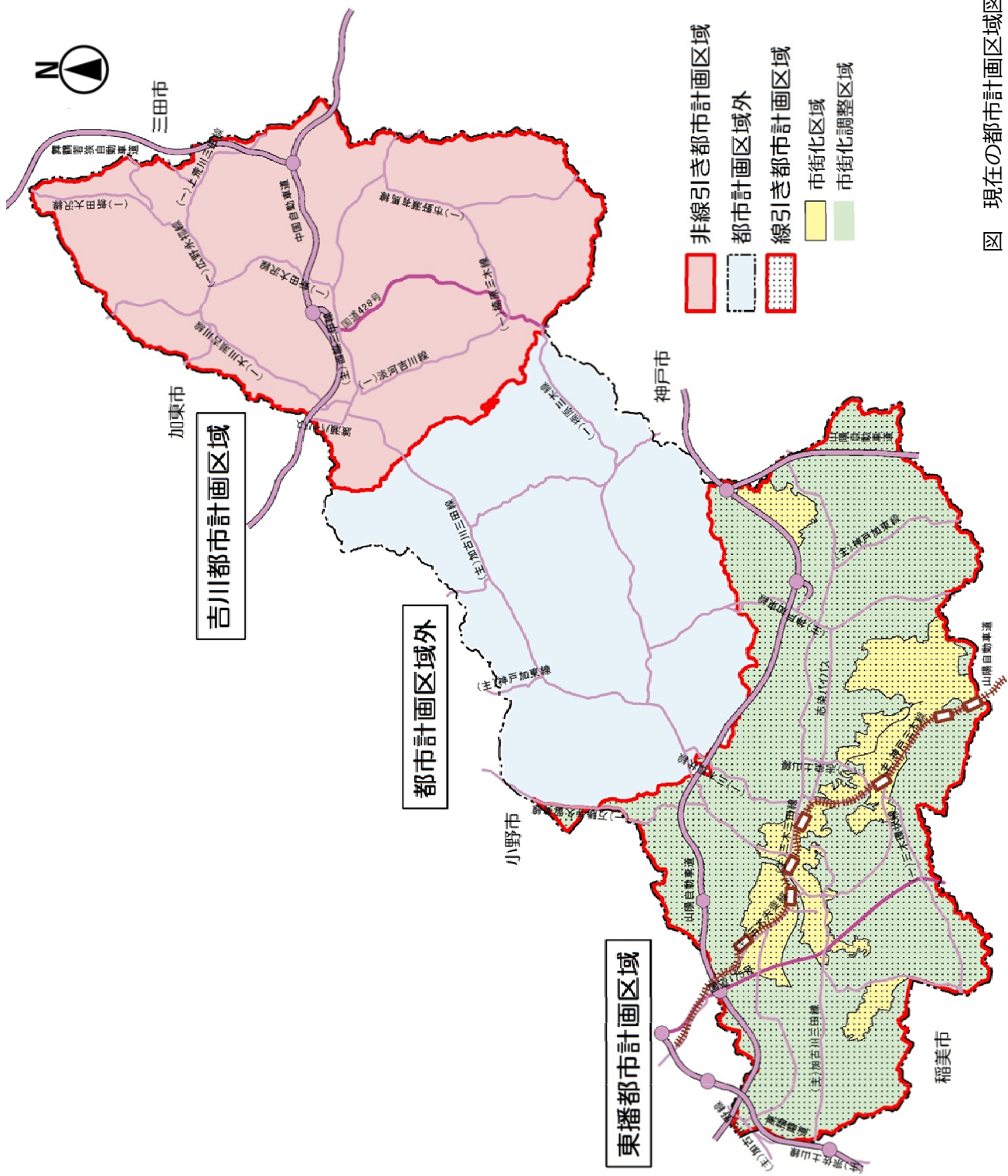
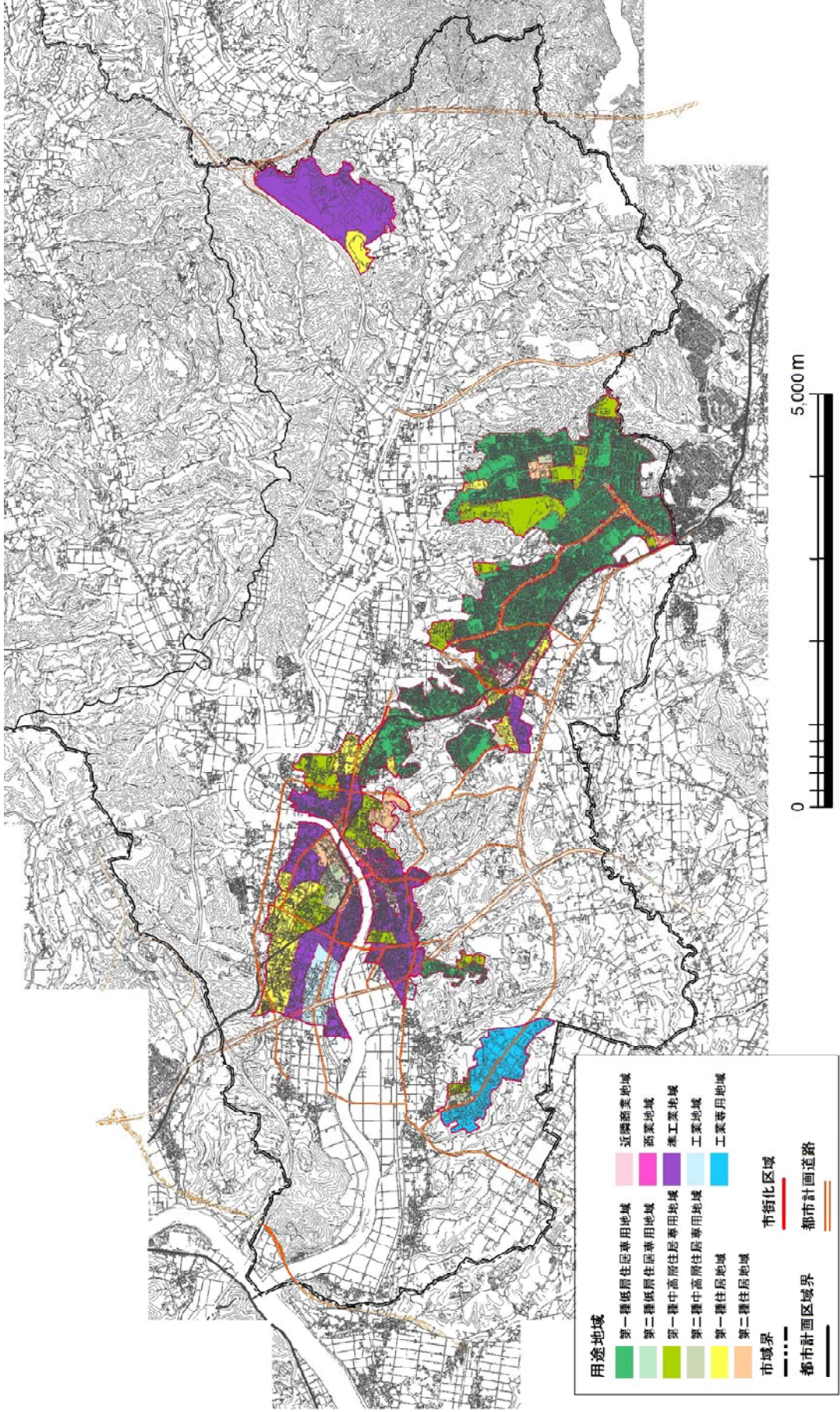


図 現在の都市計画区域図

(3) 用途地域の概要

東播都市計画区域（線引き都市計画区域）では、13種類の用途地域のうち、田園住居地域、準住居地域を除く用途地域を指定しています。



2.現状と動向

(1) 人口・世帯

1) 市域の人口・世帯の推移

本市の人口は、住民基本台帳（9月末現在）によると、平成29（2017）年現在78,448人で、平成23（2011）年80,952人から2,504人減少しています。また、世帯数の増加の背景には老年人口割合の上昇、年少人口及び生産年齢人口割合の減少により単独世帯が増加していることがうかがえます。

住民基本台帳（9月末現在）における年齢3区分人口割合は、平成29（2017）年の年少人口（14歳以下）が11.5%、生産年齢人口（15～64歳）が56.2%、老年人口（65歳以上）が32.3%となっています。

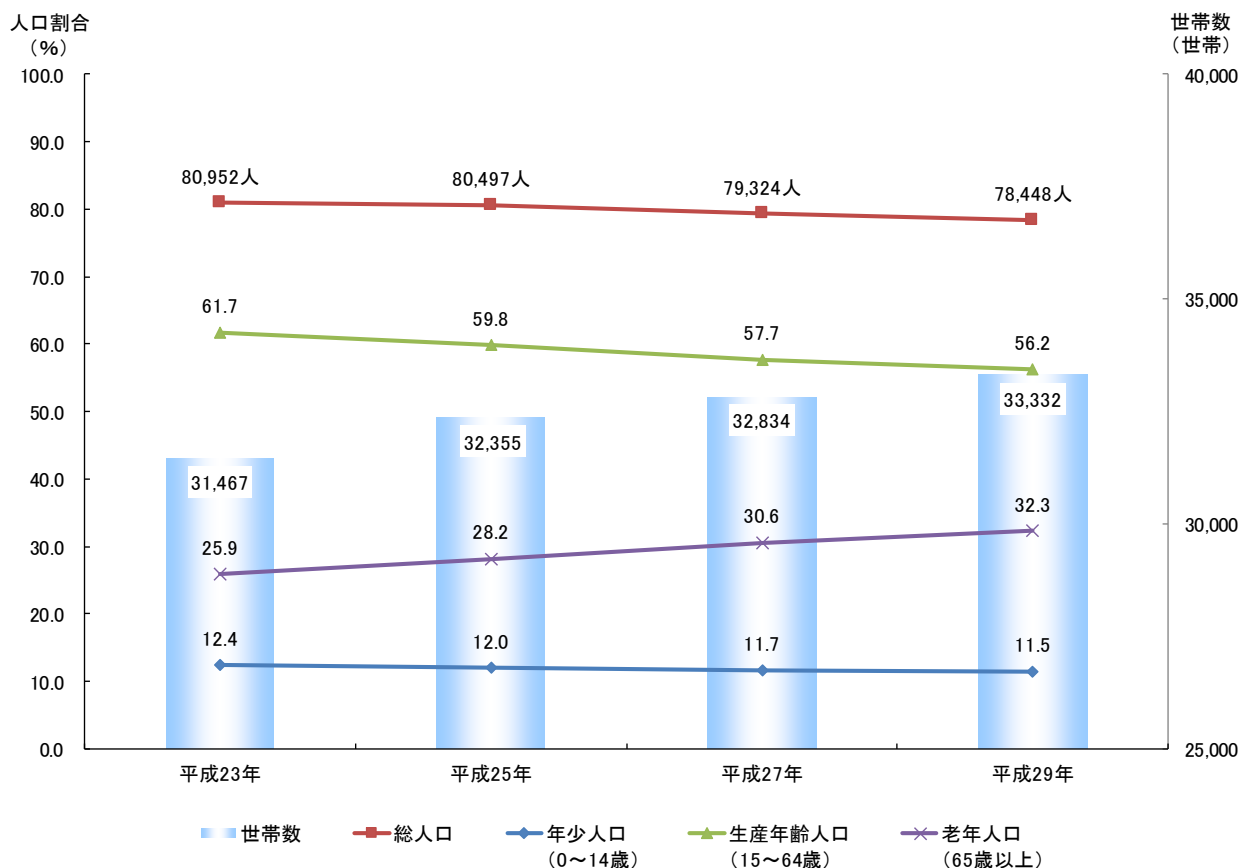


図 市域の人口・世帯の推移

資料：住民基本台帳（各年9月末現在）

2) 地域別の人口推移

地域別の人口推移は、三木地域、三木南地域がほぼ横ばいの傾向、その他の地域は減少傾向にあり、志染地域、細川地域、口吉川地域、吉川地域は減少率が高くなっています。

地域別の老年人口割合をみると、緑が丘地域と細川地域がそれぞれ約40%と特に高く、生産年齢人口は、緑が丘地域が49.3%と市内では最も低い割合となっています。

年少人口は、三木南地域(17.5%)、青山地域(13.4%)、別所地域(12.1%)、三木地域(12.0%)で市平均(11.5%)を上回っていますが、細川地域(6.4%)、志染地域(7.1%)、吉川地域(8.4%)、口吉川地域(8.7%)、緑が丘地域(10.6%)、自由が丘地域(11.2%)は市平均を下回っています。

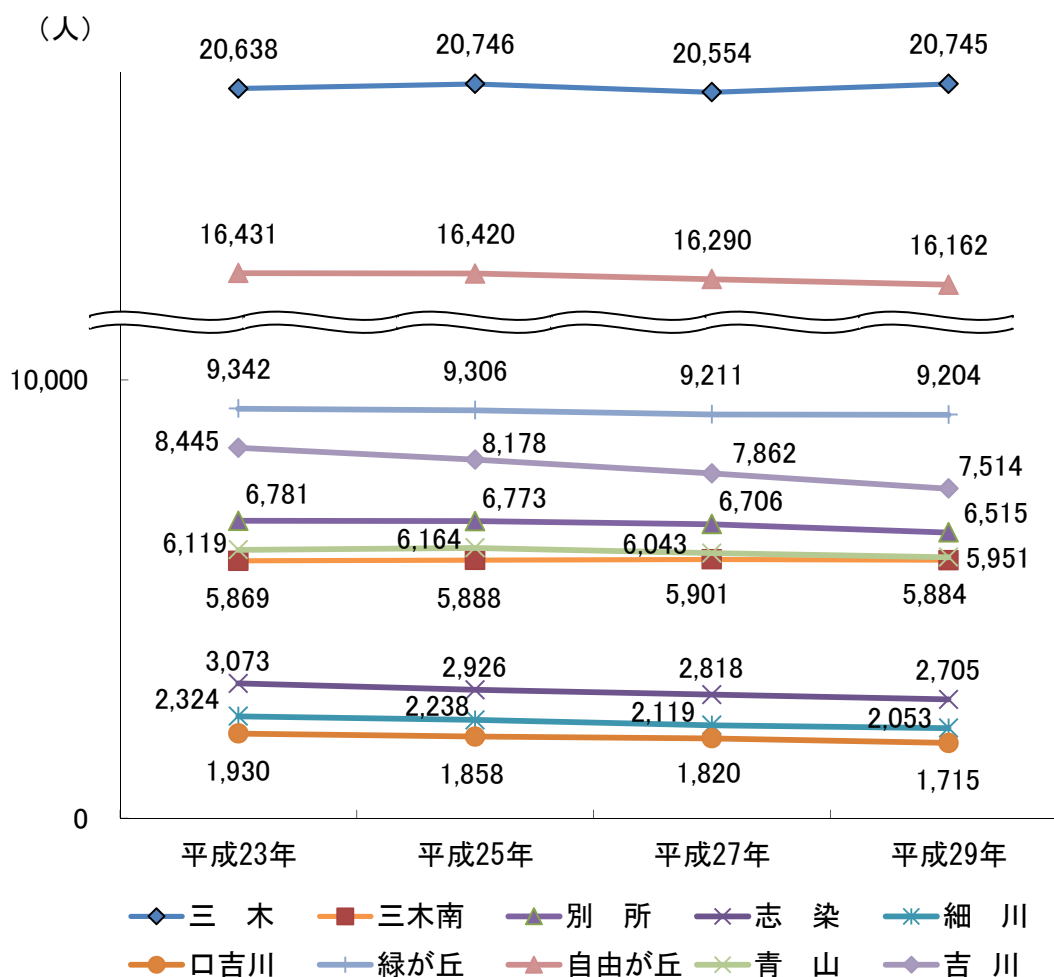


図 地域別の人口推移

資料：住民基本台帳（各年9月末現在）

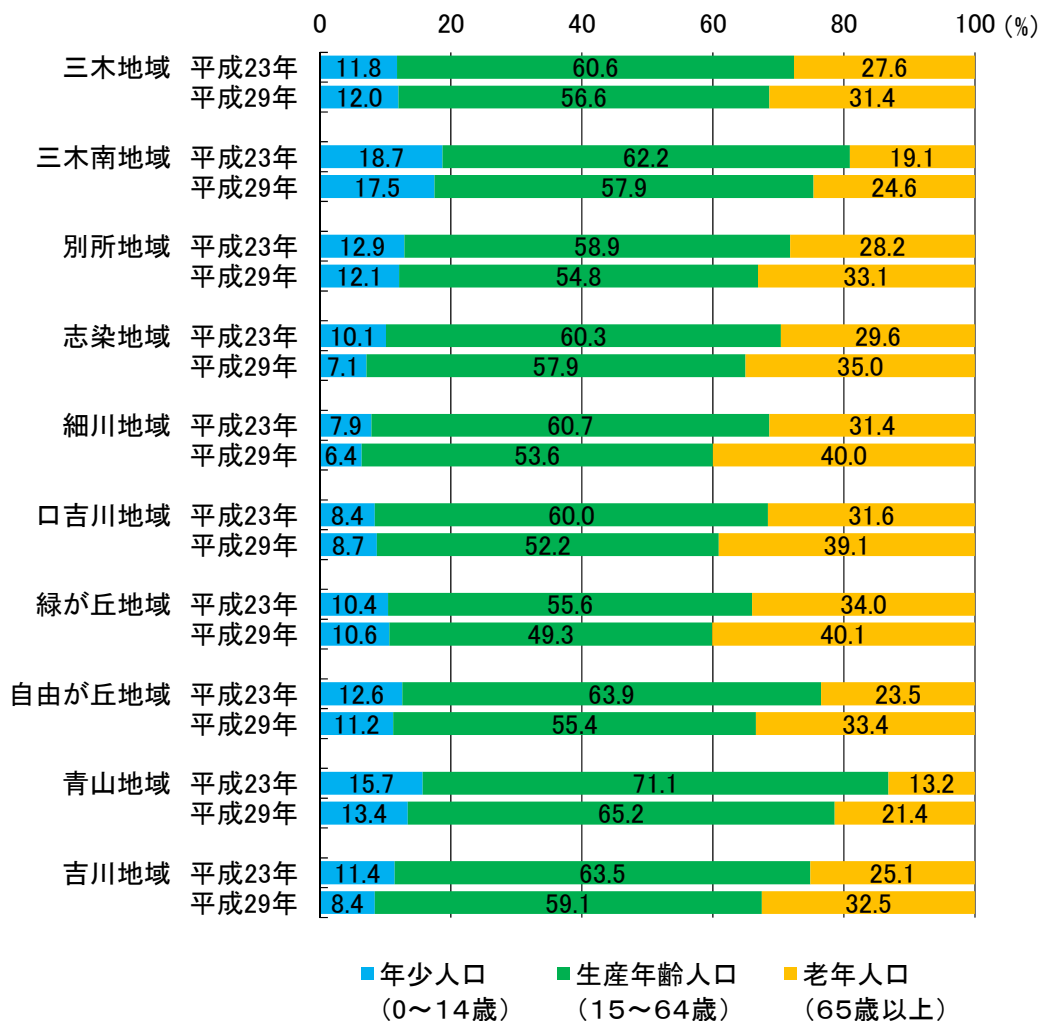


図 地域別年齢3区分別人口割合の推移

資料：住民基本台帳（各年9月末現在）

3) 都市計画区域別の人口推移

平成22（2010）年からの伸び率は各区域で減少しています。区域別には市街化区域が-1.1%と最も低く、市街化調整区域は-5.8%、吉川都市計画区域は-9.2%となっています。都市計画区域外は-23.5%と大きく減少しています。

表 都市計画区域別の人口推移

区分	平成22年 (千人)	平成27年 (千人)	増減率 (%)
東播都市計画区域	69.0	67.6	-2.0
市街化区域	55.1	54.5	-1.1
市街化調整区域	13.9	13.1	-5.8
吉川都市計画区域	8.7	7.9	-9.2
都市計画区域外	5.1	3.9	-23.5

資料：国土交通省都市計画現況調査（各年3月末現在）

(2) 産業

1) 農業

農業従事者は、平成 17（2005）年の 7,600 人から平成 27（2015）年には 5,350 人に減少しています。農業算出額は、平成 17（2005）年の約 53 億円から平成 27（2015）年には約 49 億円で減少しています。経営耕地面積は、平成 17（2005）年からほぼ横ばいの傾向にある中で、耕作放棄地は、農業従事者の減少と相まって、平成 17（2005）年の 39.3ha から平成 27（2015）年には 87.4ha と 48.1ha の増加となっています。

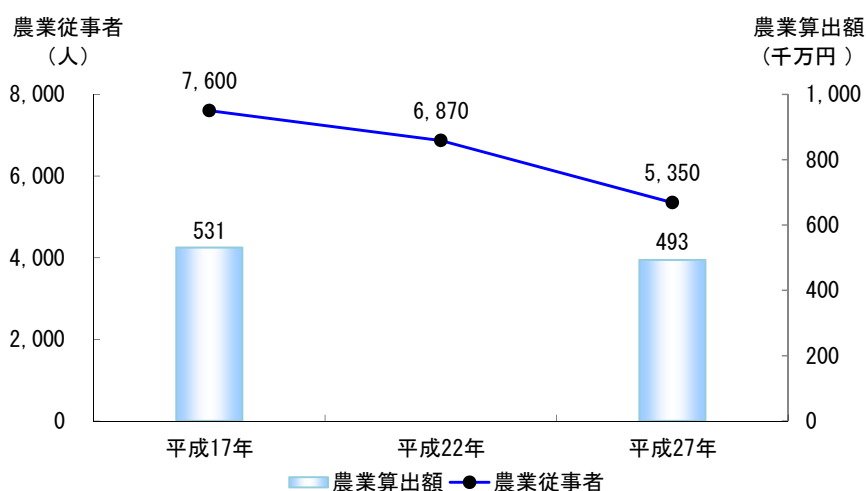


図 農業従事者及び農業算出額の推移

注：平成 22 年の農業算出額の統計調査は作成されていません。

資料：農業従事者数は農林業センサス（農林水産省統計調査部）

農業算出額は生産農業所得統計（農林水産省統計調査部）

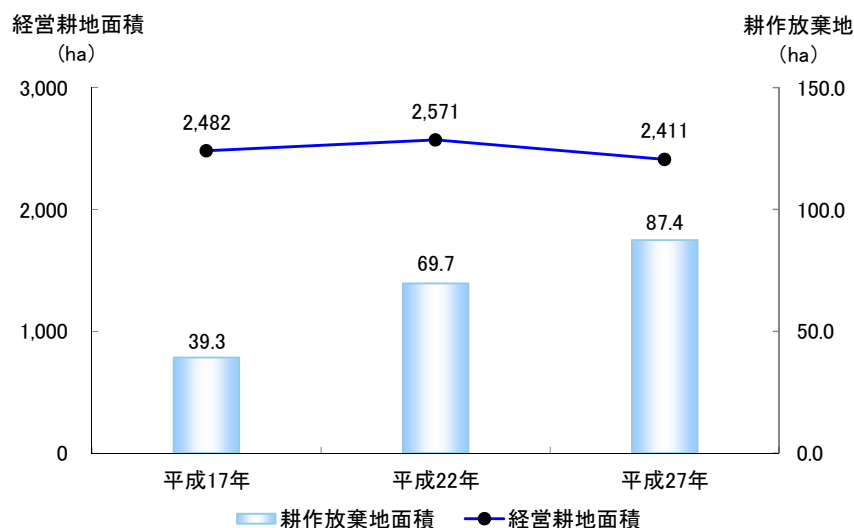


図 経営耕地面積及び耕作放棄地の推移

資料：農林業センサス（農林水産省統計調査部）

2) 商業

小売業における推移をみると商店数は、平成 19 (2007) 年の 698 店舗から平成 26 (2014) 年は 480 店舗と大幅に減少しています。年間販売額も、平成 19 (2007) 年の約 904 億円から平成 26 (2014) 年は約 798 億円と減少傾向にあります。

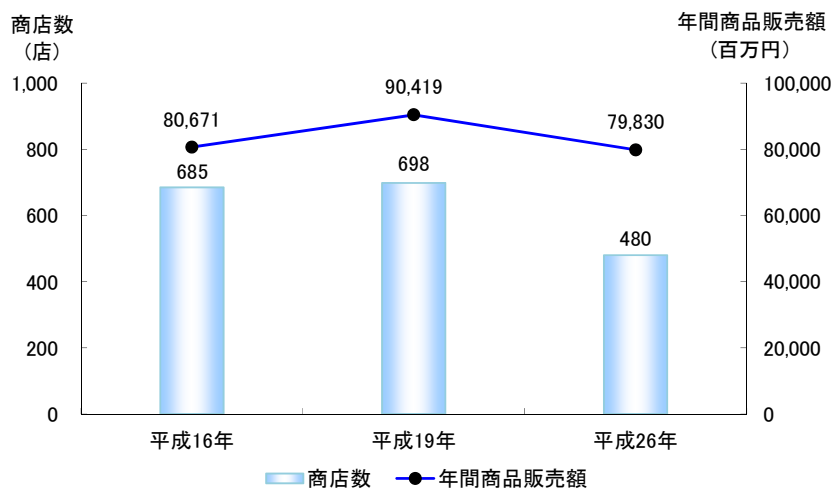


図 商店数及び年間販売額の推移 (小売業)

資料：商業統計調査

3) 工業

工業の推移をみると事業所数は、平成 22 (2010) 年の 281 事業所から平成 26 (2014) 年は 241 事業所とほぼ横ばいの傾向にあります。年間製造品出荷額等は、平成 23 (2011) 年の約 1,346 億円から平成 26 (2014) 年は約 1,751 億円と増加傾向が続いています。

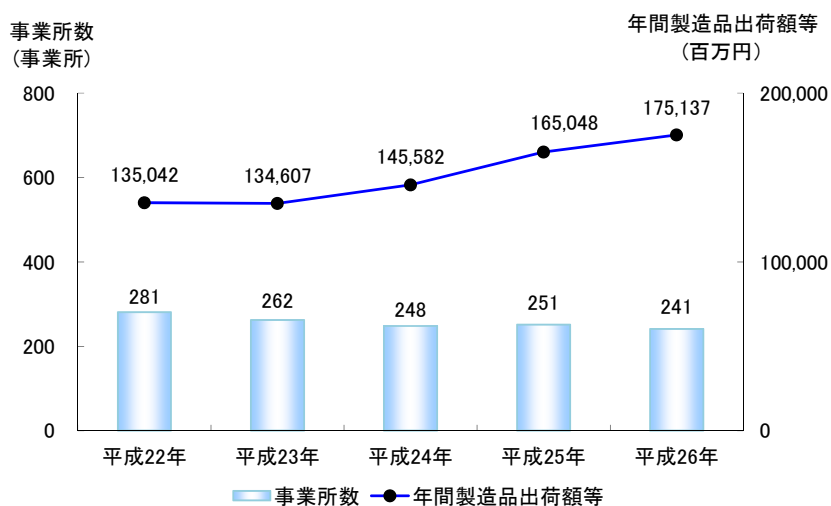


図 事業所数及び年間製造品出荷額等の推移

資料：工業統計調査 (4人以上の事業所)

(3) 土地利用

平成 27 (2015) 年の土地利用をみると、山林が 23.7%、田・畑が 19.3%と多く、あわせて市域面積の約 4 割を占めています。また、ゴルフ場も 11.4%と多くなっています。宅地は、市域面積の 8.4%で、増加傾向にあります。

表 土地利用の推移

		平成 22 年 (ha)	平成 27 年 (ha)	構成比
総数		17,658.0	17,658.0	100.0%
田		3,119.2	3,099.1	17.6%
畑		309.1	307.5	1.7%
宅地		1,424.1	1,483.7	8.4%
池沼		6.2	6.2	0.0%
山林		4,065.0	4,193.5	23.7%
牧場		1.6	1.6	0.0%
原野		552.2	548.3	3.1%
雑種地	計	2,962.5	3,014.1	17.1%
	ゴルフ場	1,984.8	2,001.8	11.4%
	遊園地など	343.3	343.3	1.9%
	鉄軌道	10.8	10.8	0.1%
	その他	623.6	658.2	3.7%
その他		5,218.1	5,004.0	28.4%

資料：土地に関する概要書（各年 1 月 1 日現在）

(4) 住宅

1) 大規模戸建住宅団地の状況

本市における大規模戸建住宅団地は、昭和 40 (1965) 年～55 (1980) 年頃に開発された自由が丘地域、緑が丘地域、その後に開発された青山地域があげられます。

自由が丘地域は、人口減少が著しい傾向にあり、緑が丘地域は、人口減少及び老年人口割合が高くなっています。青山地域の人口は微増、老年人口の割合は低いものの、その割合は、平成 14 (2002) 年から 12.3 ポイント増と 2 倍以上となっています。

表 市内の大規模戸建住宅団地の開発概要

地域名	施行面積 (ha)	事業開始	事業完了	入居開始
自由が丘	230	昭和 40 年	昭和 55 年	昭和 44 年
緑が丘	136	昭和 45 年	昭和 51 年	昭和 46 年
青山	181	昭和 58 年	平成元年	昭和 60 年

注：自由が丘の入居開始年は市政 50 周年のあゆみによります。

資料：兵庫県ニュータウン再生ガイドライン（平成 28 年 4 月 兵庫県）

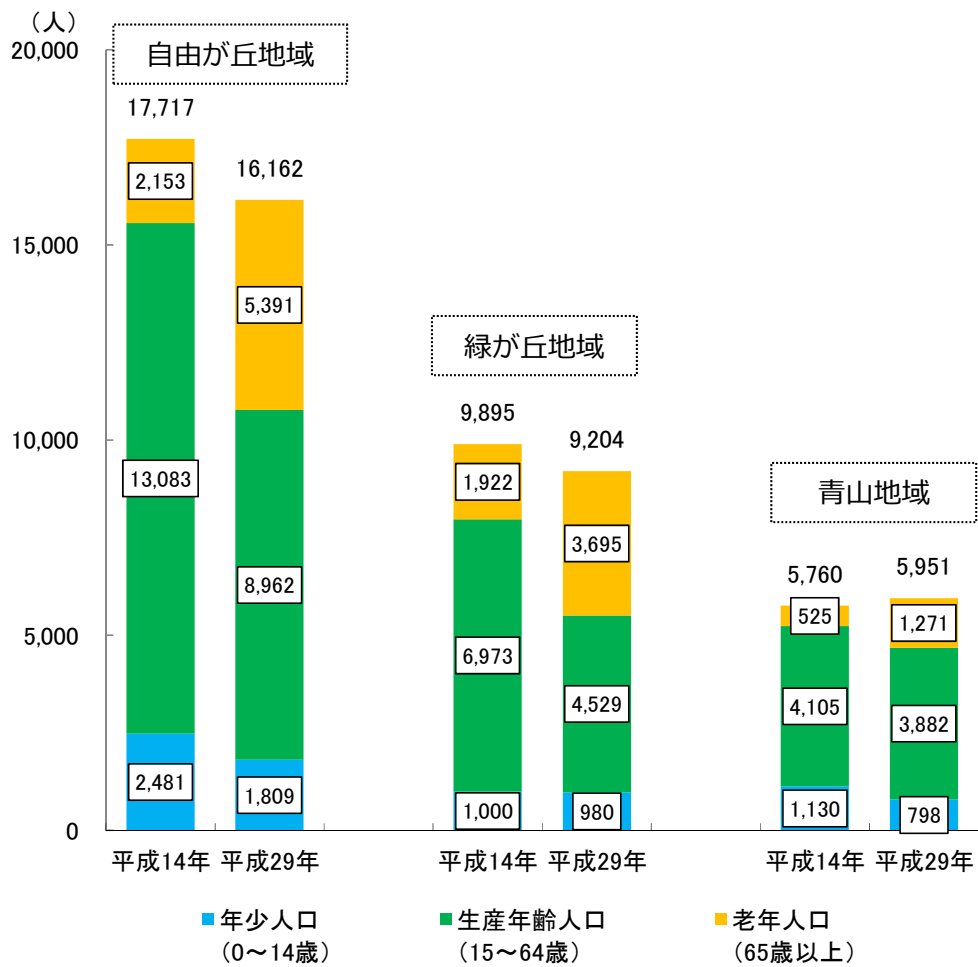


図 地域人口（大規模戸建住宅団地）の推移

資料：住民基本台帳（各年9月末現在）

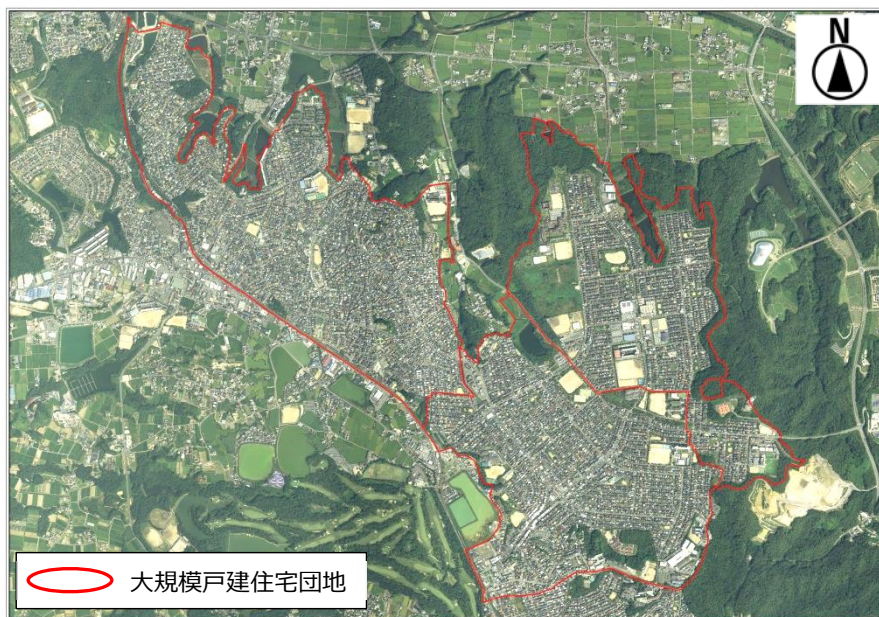


図 自由が丘・緑が丘・青山の大規模戸建住宅団地の地域

2) 旧市街地

旧市街地内の福井1・2・3丁目、本町2・3丁目には狭あい道路が多く、古い木造住宅が密集した防災街区課題地域があります。また、歴史的町並みなどの地域固有の資源も残されています。

表 防災街区課題地域の位置と規模

	地区	面積 (ha)
防災街区課題地域	福井1・2・3丁目 本町2・3丁目	54.1

資料：東播都市計画防災街区整備方針（平成28年3月兵庫県）

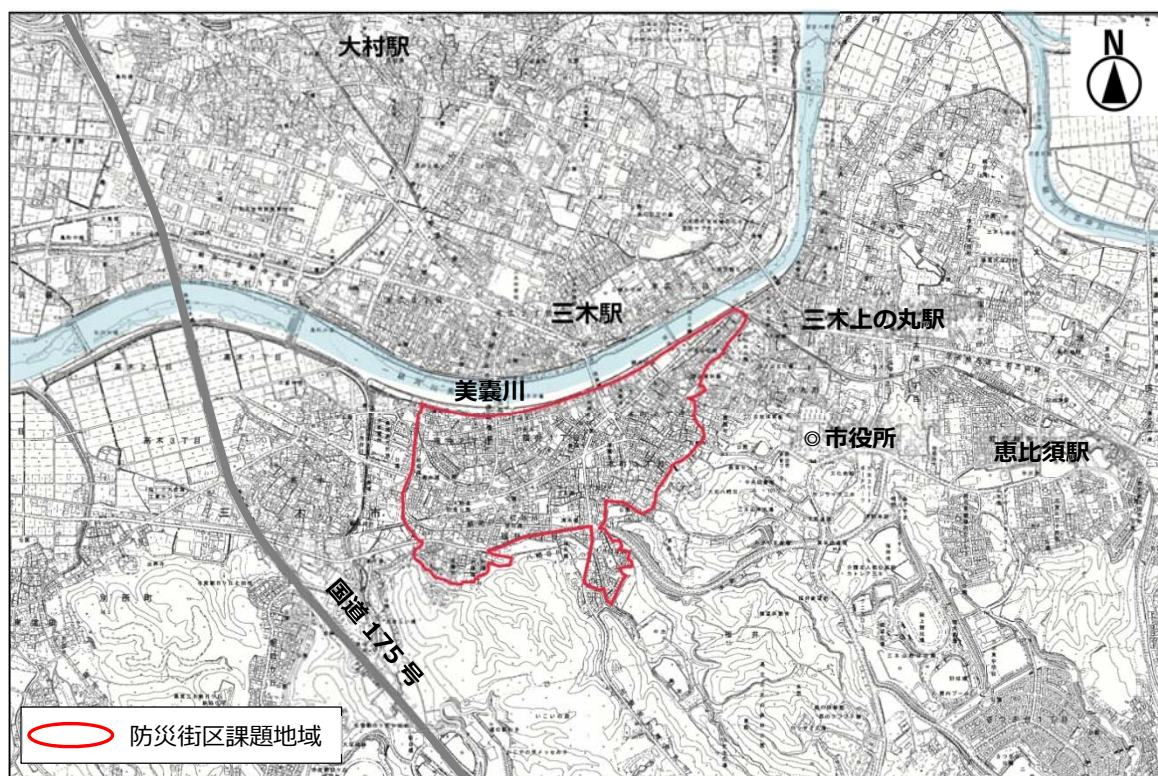


図 防災街区課題地域位置図

3) 空き家の状況

住宅総数、空き家ともに増加傾向を示す中で、住宅総数は、平成 20（2008）年の 27,540 戸から平成 25（2013）年には 33,020 戸で 5,480 戸と急激に増加しています。一方、空き家も平成 20（2008）年の 2,720 戸から平成 25（2013）年には 3,370 戸で 650 戸と急激に増加しています。

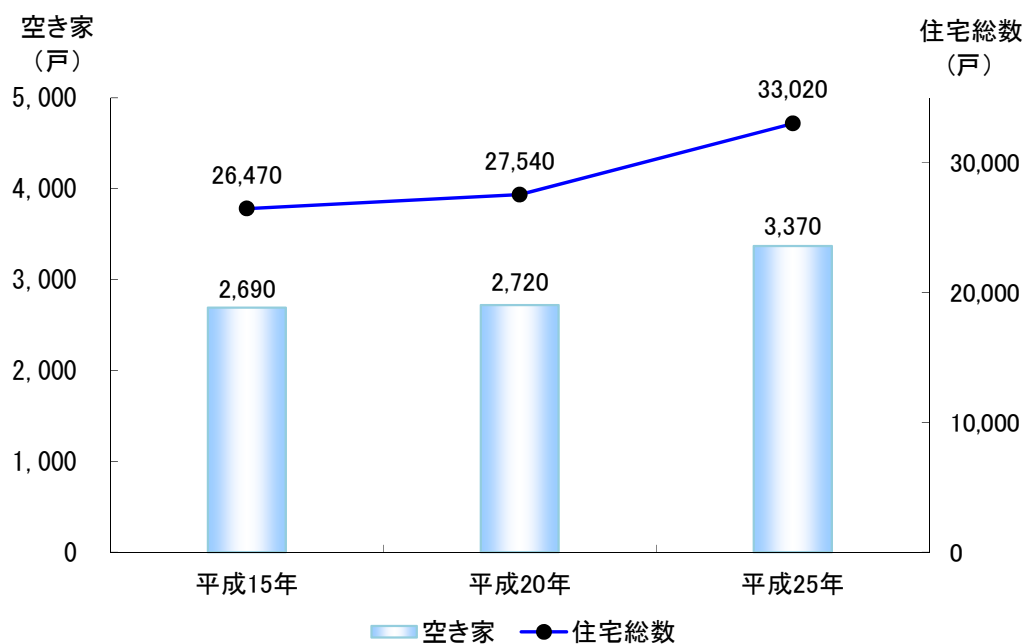


図 住宅総数及び空き家の推移

資料：住宅・土地統計調査（総務省統計局）

(5) 交通

1) 幹線道路網

本市には、国土幹線軸である中国自動車道、山陽自動車道、舞鶴若狭自動車道が通るとともに、東播磨道の整備が進んでおり、優れた高速道路網が形成されています。

また、幹線道路の軸である国道175号・428号をはじめ、主要地方道及び一般県道が市内や隣接市町と連絡しています。

山陽自動車道の三木サービスエリア内に接続する、スマートインターチェンジの設置が検討されています。

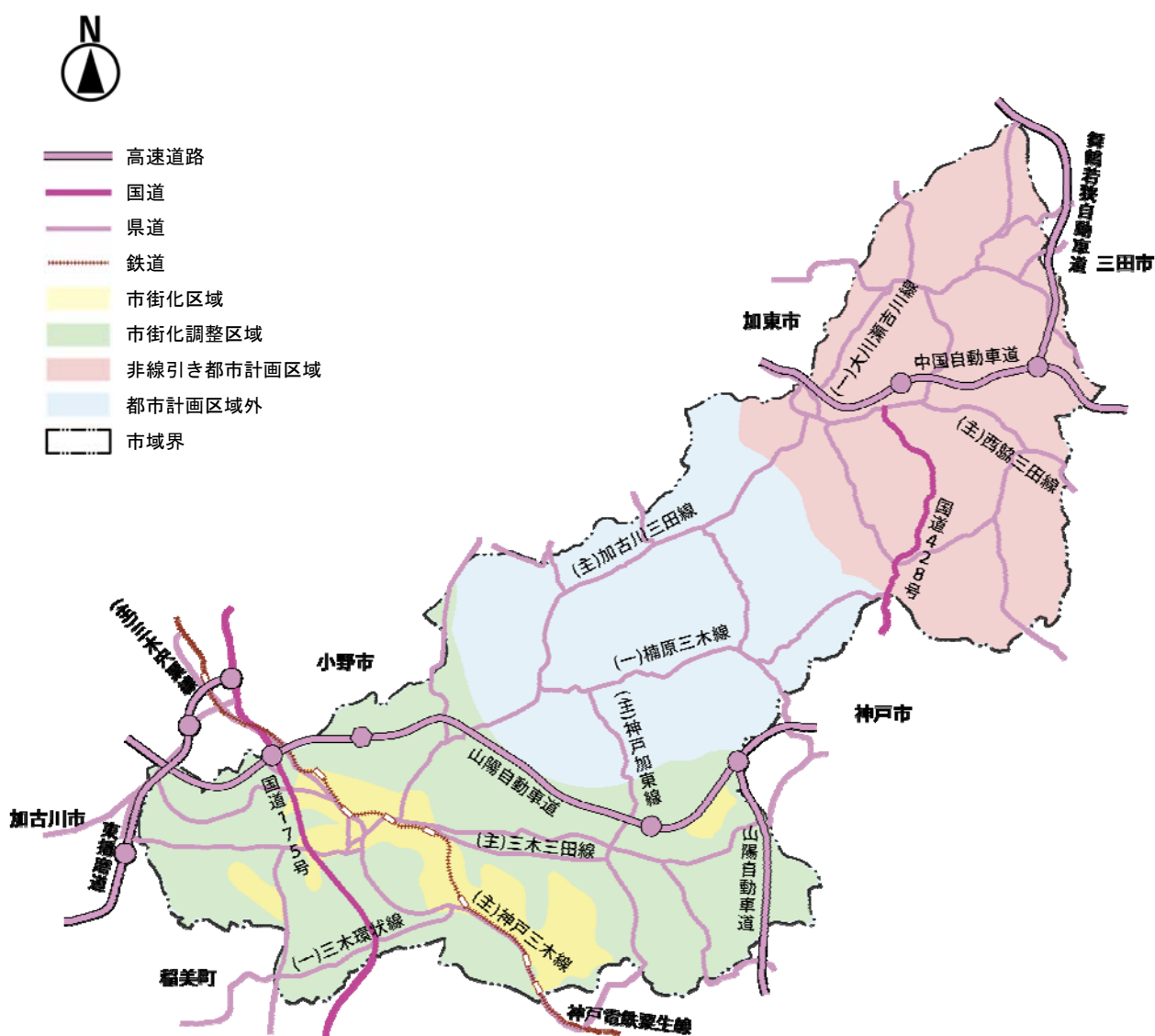


図 幹線道路網図

2) 鉄道・バス

本市の南部では、神戸電鉄粟生線（緑が丘駅～大村駅）が運行しています。

平成 23（2011）年度～27（2015）年度の実利用者数は、減少傾向が続いているものの、近年は鈍化傾向にあります。

一方バスは、市内各駅や各市立公民館などをはじめ、北播磨総合医療センターを結ぶルートや神戸市三宮と直結するルートなどで運行されています。

粟生線各駅に接続しているバス停の乗車数（神姫バス・神姫ゾーンバスのICカード ニコパ利用のみ）をみると、緑が丘駅の利用客が多く、志染駅、恵比須駅、三木上の丸駅では増加傾向にあります。また、路線バスなどの補完的役割を担う地域ふれあいバスも、別所・細川・口吉川・自由が丘地域で運行しています。

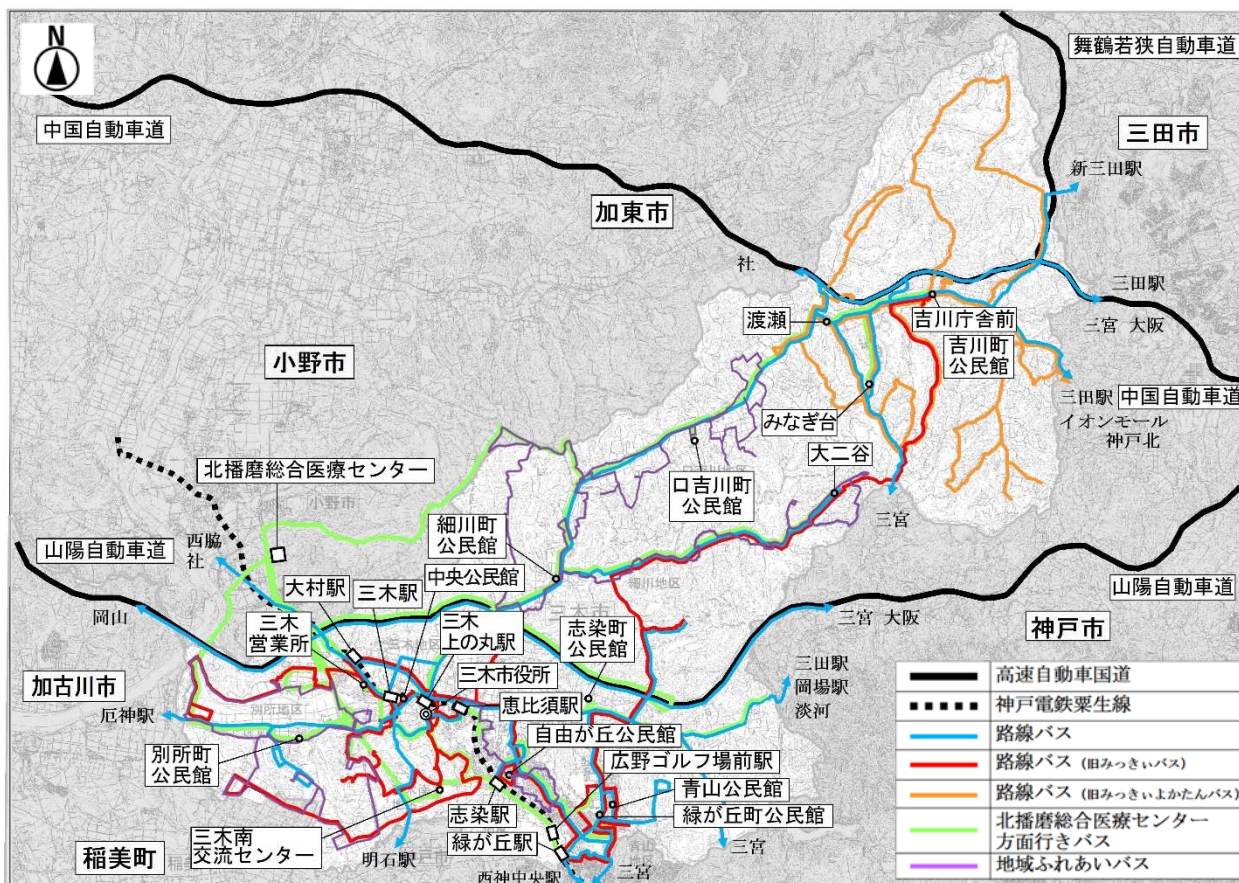


図 公共交通網図

注 : 公共交通網図は平成 28 年 8 月 15 日現在

資料 : 第 1 回三木市地域公共交通検討協議会資料

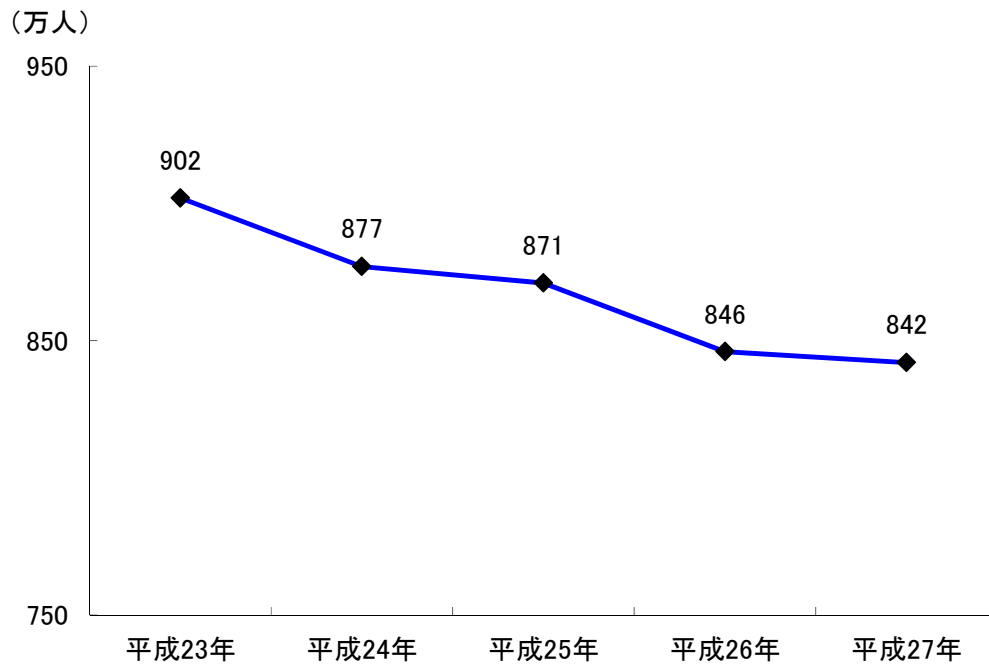


図 神戸電鉄粟生線実利用者数の推移

注：実利用者数とは、神戸電鉄が有する改札機データを解析して把握した、実際に乗降した駅での利用者数（改札通過時における利用者数）のことです。

資料：神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画

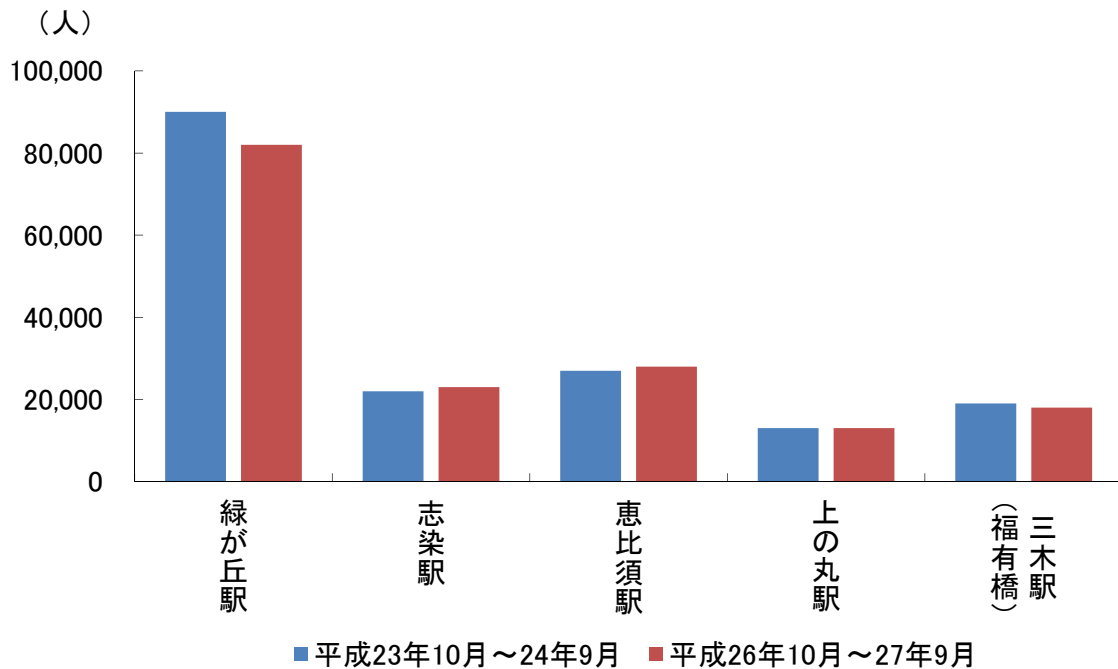


図 粟生線に接続するバス乗車数の推移

資料：神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画

(6) 地域資源

本市には、文化財や観光・レクリエーション施設など、多くの地域資源が分布しています。

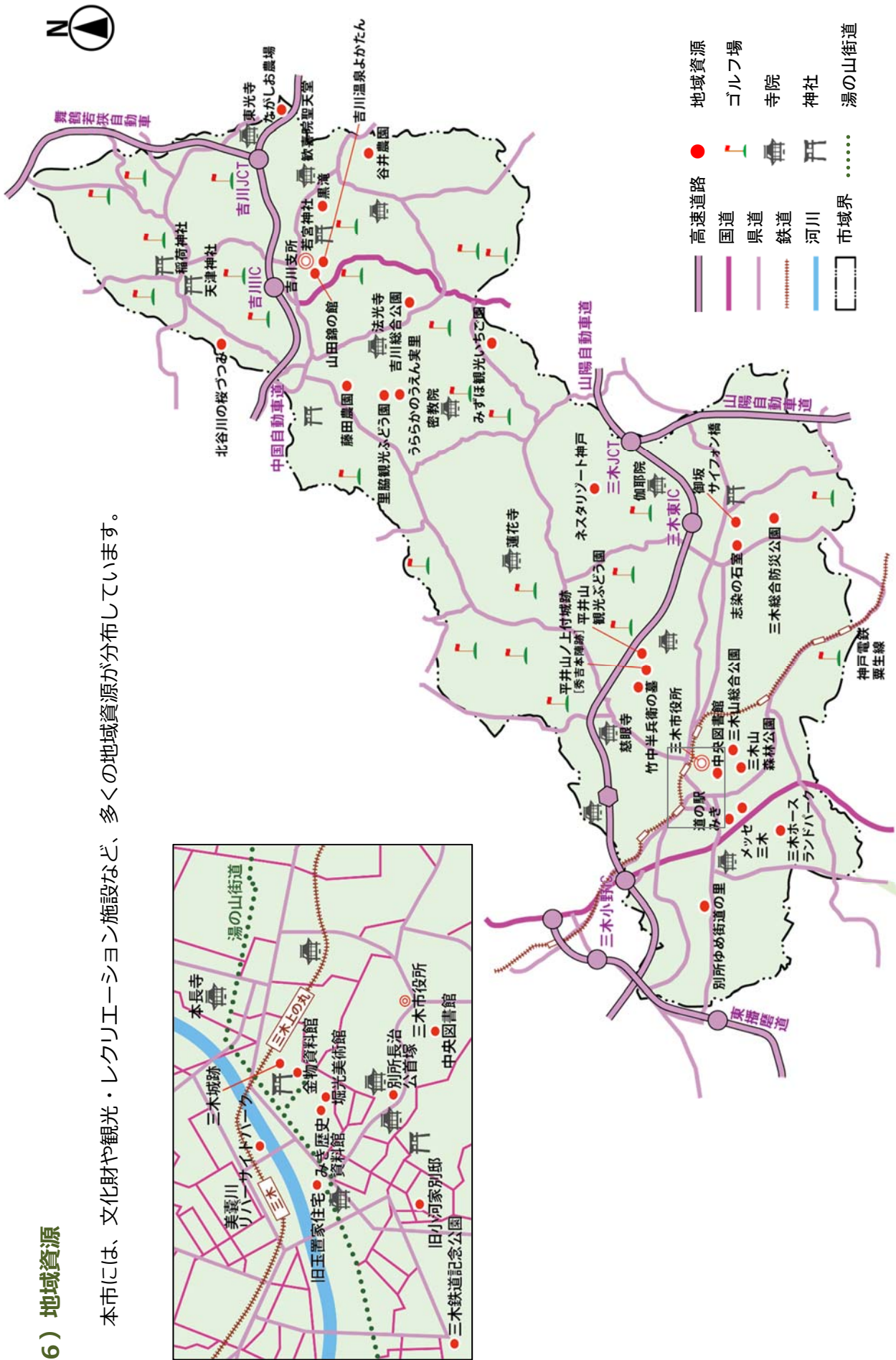


図 地域資源図

3.市民意向

都市計画マスタープランの見直しに市民の意見を反映するため、市民アンケート調査を実施しました。

●調査概要

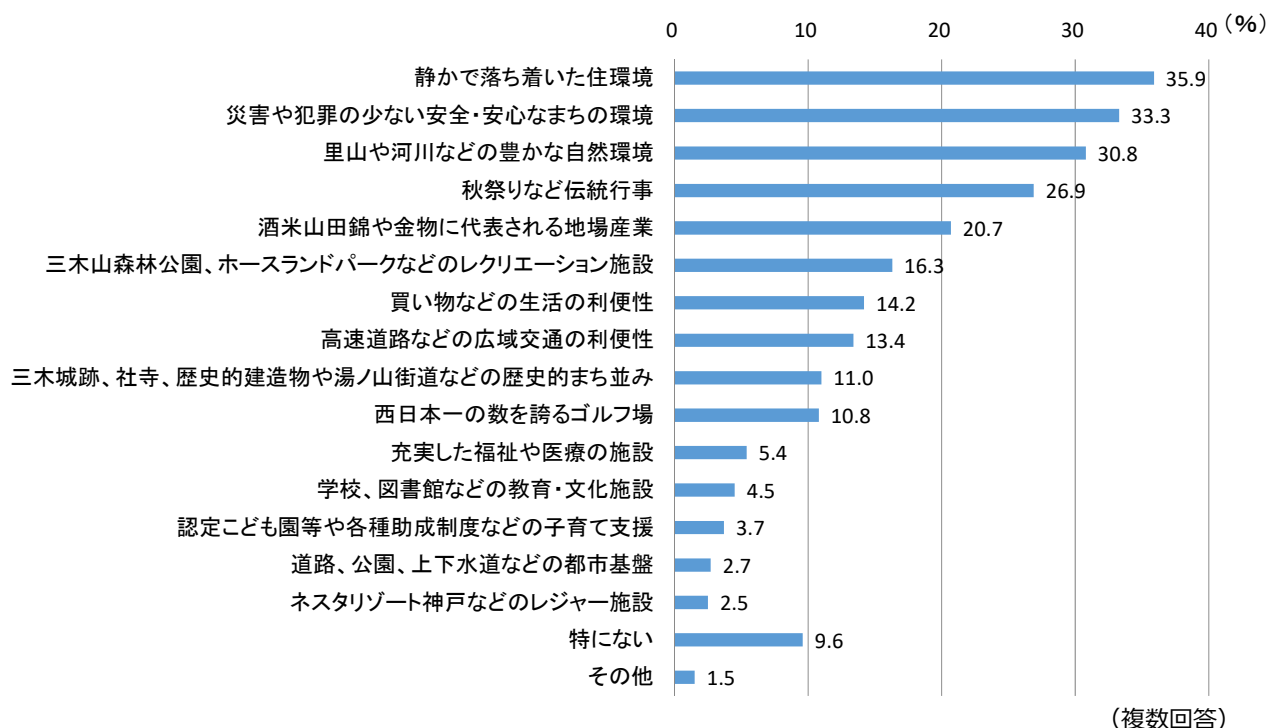
調査対象	18歳以上の市民 3,000人
調査期間	平成28年12月2日～平成28年12月29日
回答結果	回答数 1,287通、回答率 43.0%

●調査項目の概要

- ◇回答者の属性
- ◇まちの魅力と定住意向について
- ◇地域のまちづくりについて
- ◇市や地域の将来像などについて
- ◇今後のまちづくりの取り組みについて
- ◇地域の活動について
- ◇まちづくりについての自由意見

1) まちの魅力と定住意向

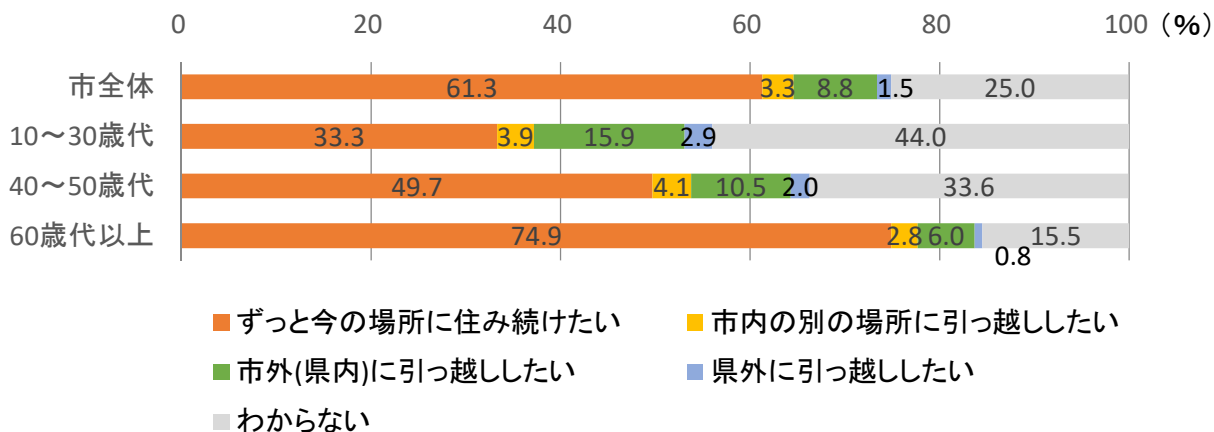
まちの魅力については、「静かで落ち着いた住環境」が最も多く、次いで「災害や犯罪の少ない安全・安心なまちの環境」、「里山や河川などの豊かな自然環境」、「秋祭りなど伝統行事」が多くなっています。



定住意向については、「ずっと今の場所に住み続けたい」が61.3%、「市内の別の場所に引っ越ししたい」が3.3%で、これら市内定住意向は64.6%となっています。

一方、「市外(県内)に引っ越ししたい」が8.8%、「県外に引っ越ししたい」が1.5%で、これら市外転出意向は10.3%となっています。

年齢別の市内定住意向は、10～30歳代が37.2%、40～50歳代が53.8%、60歳代以上が77.7%と、若い年代ほど定住意向が低くなっています。



(単数回答)



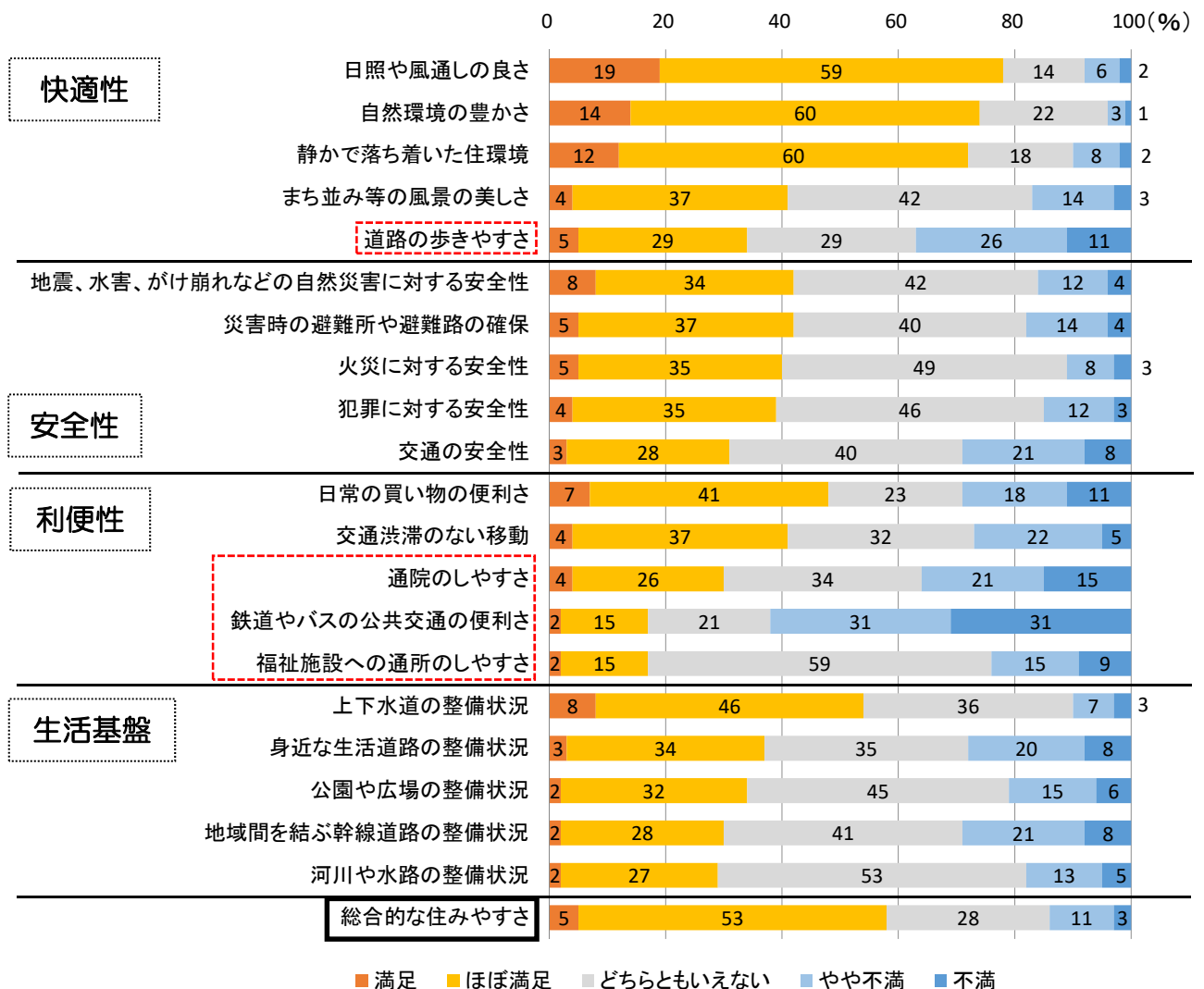
2) 地域のまちづくりの満足度・重要度

○現状の満足度

満足度（満足+ほぼ満足）が高い項目は、「日照や風通しの良さ」、「自然環境の豊かさ」、「静かで落ち着いた住環境」で、満足度が7割を超えています。

総合的な住みやすさは、満足度が約6割となっています。

一方、不満度（不満+やや不満）が高い項目は、「鉄道やバスの公共交通の便利さ」、「道路の歩きやすさ」、「通院のしやすさ」となっており、特に「鉄道やバスの公共交通の便利さ」は約6割となっています。

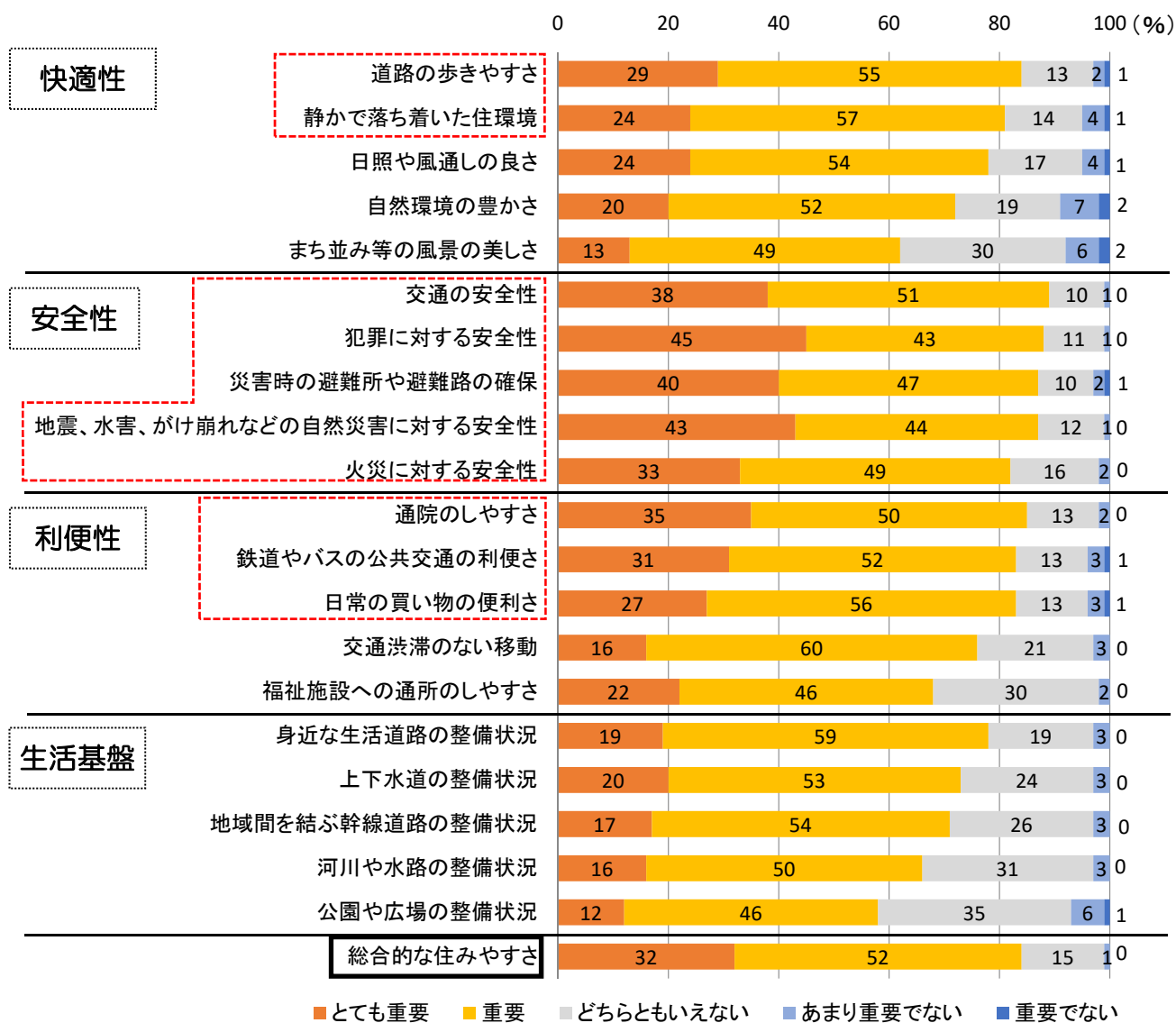


※4つの項目ごとの満足度(%)が高い順(赤枠は不満度が満足度を上回る項目)

(単数回答)

○今後の重要度

重要度（とても重要+重要）が高い項目は、「交通の安全性」、「犯罪に対する安全性」、「災害時の避難所や避難路の確保」、「地震、水害、がけ崩れなどの自然災害に対する安全性」で、安全性に関する項目が特に高くなっています。



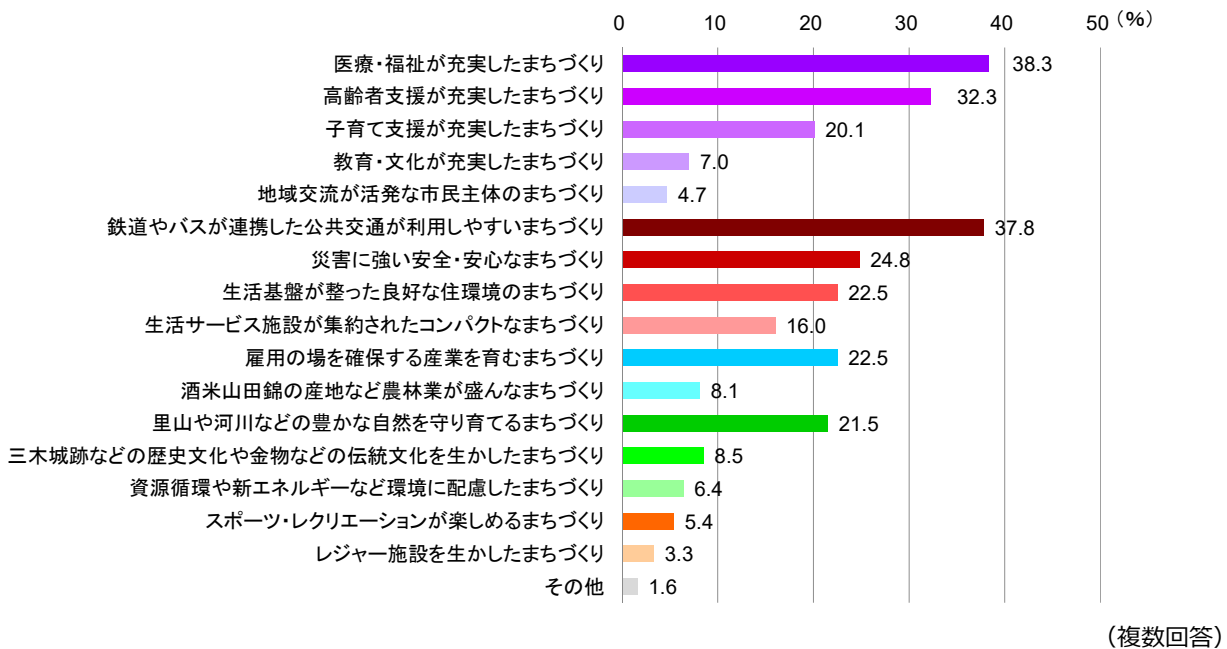
※赤枠は重要度が80%以上の項目

(単数回答)

3) 三木市のめざすまちの将来像

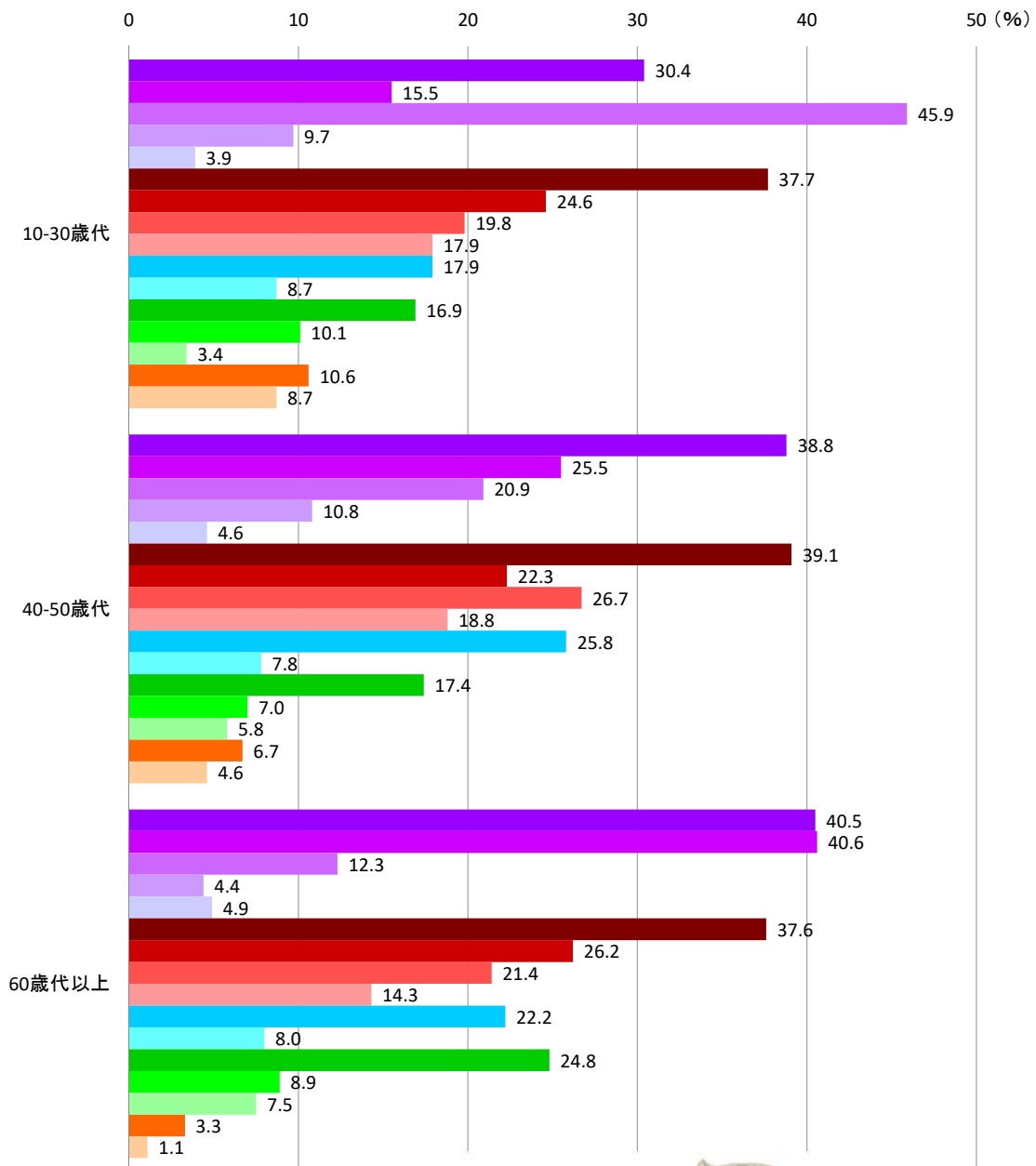
三木市のめざすまちの将来像は、「医療・福祉が充実したまちづくり」、「鉄道やバスが連携した公共交通が利用しやすいまちづくり」、「高齢者支援が充実したまちづくり」が特に多くなっています。

次いで「災害に強い安全・安心なまちづくり」、「生活基盤が整った良好な住環境のまちづくり」、「雇用の場を確保する産業を育むまちづくり」、「里山や河川などの豊かな自然を守り育てるまちづくり」、「子育て支援が充実したまちづくり」が多くなっています。



医療・福祉、教育・文化、交流関連のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 医療・福祉が充実したまちづくり 高齢者支援が充実したまちづくり 子育て支援が充実したまちづくり 教育・文化が充実したまちづくり 地域交流が活発な市民主体のまちづくり
コンパクト、生活基盤、防災関連のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道やバスが連携した公共交通が利用しやすいまちづくり 災害に強い安全・安心なまちづくり 生活基盤が整った良好な住環境のまちづくり 生活サービス施設が集約されたコンパクトなまちづくり
産業、農林業関連のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 雇用の場を確保する産業を育むまちづくり 酒米山田錦の産地など農林業が盛んなまちづくり
自然、環境保全、伝統文化関連のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 里山や河川などの豊かな自然を守り育てるまちづくり 三木城跡などの歴史文化や金物などの伝統文化を生かしたまちづくり 資源循環や新エネルギーなど環境に配慮したまちづくり
スポーツ・レクリエーション関連のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・レクリエーションが楽しめるまちづくり レジャー施設を生かしたまちづくり

○年齢別



(複数回答)

